



10年企画  
南三陸町  
若手たちの座談会

南三陸町、中橋にて

# わたす新聞

「わたす日本橋」はオープンから10年を迎えました。 Vol.9

2025年3月1日発行第9号 発行元：わたす日本橋



## 南三陸の1と(1)

大場 黎亜 (南三陸在住)



### 南三陸町の冬を賑わせる「志津川湾・冬の三大祭り」

ラムサール条約登録湿地である志津川湾の恵みを受けた魚介類をメインに、地域の農作物や南三陸の特産品を価値で販売する冬の恒例イベントです。

第一弾が、毎年12月29日に開催される「おすばで祭り」です。「おすばで」は、三陸沿岸で「酒の肴・つまみ」を意味します。年越しに欠かせないタコやアワビなどを含め、新鮮な魚介類が浜値で販売されるおとつて、毎年町内外から大勢のお客様が来場します。東日本大震災以前から長く続いている、南三陸町の年の瀬の風物詩と言っても良いでしょう。



震災前から年の瀬の一大イベントとして定着している「おすばで祭り」



旬の水揚げ時期が短い「寒鱈」を存分に味わえる「寒鱈祭り」

でした。

そしてラストの第三弾を飾るのが二月の「牡蠣祭り」です。南三陸町の豊かな山々から流れ込む、ミネラルを豊富に含んだぶりっふるの牡蠣は、濃厚でクリーミーな味わいが特徴です。今年も牡蠣の不漁が心配されましたが、それでも「南三陸の旬を楽しんで欲しい！」という心意気で、なんと蒸し牡蠣3千個のお振る舞いも！牡蠣汁や牡蠣フライなどのメニューも人気です。



ラムサール志津川湾で育った旬の牡蠣を使った料理が多数並ぶ「牡蠣祭り」

冬も美味しい旬の幸がいっぱいの南三陸町、雪も少なく過ごしやすい地域ですので、ぜひ冬の活気と味わいを楽しみに、次の冬のご予定をご検討ください。

## 南三陸町の次世代、それぞれの10年、これからの10年

これまでに「わたす新聞」や「生産者たちのものがたり」等でもご紹介してきた南三陸町の次世代たち。今回は、山内淳平さん、阿部和也さん、阿部将己さん、そして筆者(大場黎亜)とで、これまでを振り返りつつこれからの10年について語りました。

黎亜…みなさんの「わたす日本橋」への印象や思い出などありますか。私はまだボランティアで通っていた頃「今度東京にこんな場所ができるんだぞ」と嬉しそうに町の関係者から計画を見せられたことを昨日のこのように思い出します。

淳平…立ち上げの頃から関わらせてもらって、ヤマウチのお得意様を集めた商談会なども開催したり、提供する食材や商品も一緒に考えさせてもらって来ました。コロナ禍もあった中、10年続けて来られたのは凄いなと思います。

和也…うちは母が以前から関わっていたので、その様子を見聞きしてきました。そのわたすに、去年自分の取り組みを取り上げてもらえて、感慨深いです。

将己…去年新聞に取り上げてもらったのが初めてですが、実は帰ってくる前は日本橋で働いていて、移転前のわたすにはランチに行ったことがあるんですよ。「地元食材を使ってPRしてくれるお店があるんだ、有難いな」と思っていました。

淳平…わたすはオープン当初から、料理も食材を大事にしながらいっしょに作ってくれている印象があったし、スタッフの人たちも現地のことを学びに来てくれたり、一生懸命な印象がありました。だから「一緒に何かしたい」と思わせてもらえたくらいです。

黎亜…わたすも10年ですが、皆さんの10年はどうでしたか。

将己…家業があるから、震災前から「いつかは帰らないといけないのかな」とは漠然と思っていました。でも、震災の時に一週間程父親と連絡が取れなかった時「親父死んだのかな、そして俺が継ぐのか」と思ったんです。実際父親は無事でしたが、震災をきっかけに真剣に考えたいと思います。こんなに早く帰ってくるつもり



日本橋からイベント開催報告



24年10月12日  
「能登半島支援会」第2回開催  
24年8月に続き、トークイベントを開催。映像作家の有馬尚史さん、能登より松波酒蔵金七聖子さんにお話しいただき、能登の「イマ」をお話いただきました。そして来たる5月17日、第3回の開催が決定。地震に加えて、豪雨災害も起きてしまった能登地方。能登の現在、



25年1月28日  
「岩手の日本酒のプロと知る「岩手のおいしい日本酒セミナー」」  
福島、宮城、山形と昨年より開催してきた「東北の地酒・日本酒セミナー」。今回は、岩手県工



25年2月8日  
「ワークショップ」世界にひとつだけのねぶた灯ろうを作ろう」  
「黒石ねぶたまつり」に使う「ねぶた絵」を再利用して作るユニークな「ねぶた灯ろう」。

### Watasu Gallery 春夏 わたすギャラリーから



「人と未来に、心の架け橋」をコンセプトに、2015年、日本橋一丁目オープンした「わたす日本橋」。2021年の移転を経て、今年で10年を迎えました。3月から、わたすギャラリーでは、これまでの振り返りとご縁のあった方々からの「10年先へのメッセージ」を公開します。

### 「わたす」のルーツを訪ねて

「わたす日本橋」山田 美和



震災後、南三陸町との出会いがきっかけで生まれた「わたす日本橋」は今年で10年目を迎えます。現在の「わたす日本橋」は防災、能登半島支援、文化伝承、SDGs、多様性と活動の幅を広げています。今回は10年企画として気仙沼線BRTで巡ってきました。石巻市出身の映画監督の映画を東京で観てから現地の伝承館や震災遺構の大川小学校などを訪れたので、穏やかな海を見た時、感慨深く涙が止まりませんでした。私たちが忘れてはならない教訓を未来へ生かす発信の必要性を改めて感じた旅でした。また、復興した気仙沼港の立派でやさしい風景、南三陸町で訪れた海

の見える新しいカフェでは3世代がお食事を楽しまれている。そんな光景を見て、力強い復興と前向きな未来を感じました。微力ながら「わたす日本橋」から、発信を続けていきたいと思っています。



山内淳平(やまうちじゅんぺい) 株式会社ヤマウチ専務取締役。志津川地区出身。震災後、同級生たちと共に「南三陸ふっこう青年会」(現「南三陸大盛会」)を立ち上げ、若い世代を中心に「南三陸復興市」をはじめさまざまなイベント等で復興を牽引してきた一人。

阿部和也(あべかずや) 大学卒業後、某大手ECサイトの子会社を経て、広告業界で働く。2020年に地元・戸倉地区へ戻り、漁師を継ぎFISHERMAN'S KITCHEN(フィッシャーマンズキッチン)を立ち上げた。母はわたす日本橋立ち上げから関わっている「たみこの海バック」代表。

りではなかったけど、変化の10年でした。淳平…俺ら世代のUターン組は、震災前に帰ってきたのが多いから、震災後に帰ってきた後輩たちは本当によく考えていて「俺たちもちゃんと考えなきゃな」といつも思います。黎亜…でも、帰ってきた時に、淳平さん世代が上の世代と上手に付き合いつつ、若い世代でもできることをやっていくぞとリードしてくれていたことって、凄く心強いことだったと思うんです。「とりあえずやってみよう!」「俺らが楽しいと思えるならやった方がよい!」という想いと行動力、そして実践があつて。私もこの10年、この「お兄ちゃんたち」やそこに集う仲間たちと出会えたことが、いきいきとまちで暮らせる原動力になっています。

将己…正直、元々地元が嫌になって出たこともあって、あまり期待をしていなかったんですけどね。でも、実際帰ってきたら、先輩たちがいろいろ仕掛けていたり、移住者や若い人も活躍していて。「南三陸、今めっちゃ楽しそうじゃーん」って思ったし、このままじゃ自分理もれるな、自分も混ざりたいなと思いました。一同…それで、建設業の息子が「海藻」にいくんだから、凄いいよね!笑(2面へ続く)

### TOHOKU 花景色

—宮城県北—

栗原市・登米市 伊豆沼・内沼

宮城の県北では、春と夏、そのスケール、日本一と言われる花景色が見られます。5月。海をのぞむ徳仙丈山は、ヤマツツジとレンゲツツジが咲き乱れ、その数、実に50万本。紅く染まった山頂の様子は遠くからも見えるそう。7月〜8月。内陸にある、伊豆沼・内沼では、東京ドーム83個分の面積の湖一面に蓮の花が拡がり、ひと目見ようと多くの人が訪れます。

山が染まる5月

公式HP: <https://www.watasu.net>  
TEL. 03-3510-3185

Instagram: [https://www.instagram.com/watasu\\_nihonbashi](https://www.instagram.com/watasu_nihonbashi)

ミックス 責任ある木質資源を 活用した紙 FSC® C022938

### 編集後記

昨年わたす日本橋の担当になりました。美味しい食材や街の魅力、ボランティア情報の発信を色々出来たら良いなあと思っておりま〜す! (黎亜) □早朝、気嵐を求めて気仙沼港を散歩。見えず諦めかけたその時、遠くからうすら発見! 喜んで写真撮るも、何も写っていませんでした。 (和也) □取材で久しぶりの南三陸へ。地元で活躍されている若い方たちのお話を聞いて、パワーをもらいました。中橋をバックに撮影したカットがともかくよかったです! (副編集長) □座談会後の懇親会でも深い話がいろいろ。字数的にいっぱいカットしているのでもう何か全貌を紹介したい! (ねぎ娘) □震災から14年。気仙沼、南三陸の歩み。ほんの少しづつの紹介ですが、皆さんに伝わればと願っています。(ささ) □今回も無事発行となりました。この新聞で自然災害で理不尽な目に遭いながらも前に向かって元気に進む人がいる事を知っていただければ幸いです。(やっちゃん)



# 寄り道旅

## 一気仙沼線BRT編一

# 宮城県北、三陸沿岸をなぞる旅。



石巻市～登米市～南三陸町～気仙沼市を結ぶJR気仙沼線。三陸沿岸を走り、美しい眺めが人気の路線でした。しかし2011年、東日本大震災によって、甚大な被害を受けてしまいました。廃線も危ぶまれましたが、地元の熱意で、柳津～気仙沼駅間をBRT\*に形を変え、2013年運行を再開。約1時間50分の道のりです。

\*「BRT」とは、Bus Rapid Transitの略で、専用道などを利用するバス高速システムのこと。

**気仙沼駅～南気仙沼駅周辺**は湾岸散歩がオススメ。2021年にできた「気仙沼市復興祈念公園」の丘。遠くに住む私たちにも、静かに祈りの気持ちがこみ上げてくる…。そして、漁港や気仙沼海の市もたりは、港の活気にワクワク。同じ敷地にある「シャークミュージアム」は見応えたっぷり。おもしろい時間を忘れて見入ってしまう。

**気仙沼湾の向こうに上る朝日!**

公園の丘に建つモニュメント「祈りの帆一セイル」

日本唯一の「サメの博物館」だそう。実物大のシャークがお出迎え

駅+道の駅+海水浴場が1つになった場所として親しまれていた**大谷海岸**。震災では、大きな被害を受けたけれど、仮設を使いながらエリアを再整備し、2023年リニューアルオープン。県内外から多くの人が集まる場所に復活しました。

真白な雪に微笑みをたたえた大仏様

ボランティア中心に整備されている森は、少しワイルドで趣きたっぷり。

大仏様の目の前には志津川湾の絶景

建物の痛みをささ目の前に胸が詰まる。と同時に児童たちの楽しんだ姿も想像できた

柳津駅～陸前横山駅の間にある素敵な建物は、木、木、木に囲まれた「道の駅津山 もくもくランド」。

陸前横山駅から25分ほど車を走らせ、北上川を渡ったところにある「石巻市震災遺構 大川小学校」。「震災遺構」の姿を実際に見ることは、報道や写真だけでは汲み取れない、大切な何かを学んでいるのだと思った。



大場 黎亜(おおば れいあ) 東京都出身。大学在学中に東日本大震災が発生。ボランティアを機に南三陸町へ通い続け、2017年町民に。支援から始まり、現在は町民として、町内のさまざまな取り組みに関わる。株式会社Plot-d代表取締役。

和也:自分が帰ってきたときも、地元で漁師を頑張ってくれていた同世代の「戸倉Sea Boys」がいてくれたことはとても大きかったですね。自分一人だったら頑張れなかったと思うけど、すでに親世代から引き継ぎつつ自分たちができることを頑張っている姿を見ると、鼓舞される部分がありました。それから、SNSとかから見えてくる町内の人たちの活躍を見て、純粹に「カッコイイな」と思っていました。最近は一緒に町のPRイベントなどに参加することもあって、少しずつ、このまちを動かしているコアな部分が見えるようになったのが自分にとって刺激だし、これからも関わりを増やして一緒に何かしていきたいなと思いますね。

「終盤「愛郷心つてどこから来るんだろう」という話題になりました。淳平さんが間髪入れず「中学!」と答え、和也さんも中学生、将己さんは小学生の頃と言います。地域の取り組みで大人たちに良くしてもらった記憶、ただただ毎日同級生と一緒にいた日々、その日々が嫌になって一度は都会に出た共通点を持つ皆さんですが、小中学生の頃に得た原体験、原風景が、今、地元の未来を見据えて熱く語り合う姿に繋がっているのだと思うと、私たちがこれから次世代のためにすべきことのヒントにもなっていると感じた結びとなりました。(大場黎亜)

う会社でもまちでも、ある程度それができる世帯になってきたから、それを活かしてこれからは、一緒にさまざまな場面で地域の同世代や若者とコラボしていくことを頑張りたいと思います。

将己:淳平さんみたいな先輩が近くにいてくれると、本当に有難いことだと思ってる。

黎亜:私は、まだ自分が学生だった頃、ボランティアセンター近くにあったヤマウチさんに活動後お刺身を買いに行ったときの、魚を捌いていた頃の淳平さんからのお付き合い。震災から数年の間は、仕事も生活も将来どうするか模索していた淳平さんが、今こうしてヤマウチさんに居ながら自分のやりたいこと・やるべきことを見出して活躍されているのを見て、淳平さんに限らず関わってきた先輩たち皆さんですが、こういう「有難い先輩」一人一人の10年もあるようなあつたなあとしみじみ感じます。

淳平:これまで社長含め、上の世代が復興に向けて走って築いてくれたものをこれからは俺らの世代でどう継承するか、どう維持するか、それを真剣に考え始めるタイミングにもなっていると思います。

将己:10年後を見据えてやるべきことは、たくさんありますね。

和也:次の10年、南三陸町の未来を賭けた勝負ですよ。



季節に合わせてテーマカラーが変わる海藻パフェは、まるで芸術作品のような美しさと「ここにも海藻が?」という驚き、地域の旬の果実の美味しさが楽しめます。MAP-12



地元戸倉のASC認証を取得した「戸倉っこかき」を使用し、漁師のシェフと共に考案したこだわりの商品。朝獲れ牡蠣をその日に加工し、油にもこだわりました。MAP-18



地元戸倉のASC認証を取得した「戸倉っこかき」を使用し、漁師のシェフと共に考案したこだわりの商品。朝獲れ牡蠣をその日に加工し、油にもこだわりました。MAP-18

### 語りわたす -みちびき地蔵-

気仙沼の大島に「みちびき地蔵」と呼ばれる地蔵がいます。翌日七くなる人や生き物の霊がお参りする、あの世に導かれるのだという。昔々ある母が通ると、二人しかいないはずなのに村人たちが馬、牛たちの姿が次々に見えた。恐ろしくなって帰っていったが、夫は「狐にでも化かされたんだろう」と言った。翌日の大潮の日、村人がたくさん浜辺で海藻を取っていた。いつとも上に潮が引いている。思ってもや突然津波じゃー!と叫び声がした。母子は必至で逃げ切ったが、前日にみちびき地蔵の前で見た人々や馬、牛たちが津波に飲まれた。言い伝えが本当だと知った村人たちは、それ以降一層みちびき地蔵を大切にしようだ。

### よりみちお茶っ子

南三陸歌津に、新しい「居場所」を作った。

海沿いのお店は平日にもかかわらず客足が途絶えることがない。客層は老若男女さまざま。昨年春、開店したコンテナハウス「歌旅人utabi」。おしゃれな店内にはレンタルルーム、雑貨コーナー、町の情報板もある。そして料理は地元や近隣の採れ立て、旬の食材を使ったオリジナルメニューを提供している。店長の高橋美由紀さんは「歌(津)×旅×人と名づけたんですけど、何より地元の人が使えの店にしたいんです。地元の人々がホッとして、気楽におしゃべりして、だから、いろんな世代の人がいつもの格好で来るのが嬉しい」と話します。こんなお店、自分の町にも欲しい!と強く願う旅人(ささこ)でした。

URL: <https://www.instagram.com/utabi.terasse/>

MAP-20 宮城県石巻市、追分温泉 石巻の秘湯。北上川から津山に抜ける県道64号線、途中レトロな雰囲気のある建物があります。建物の名は追分温泉、建物に入り300円を払い、浴室に行くくと大浴槽は樹齢500年の樺の木を使ったという総木製で、お風呂場の床も全部木でできています。今時こんな雰囲気のお風呂はなかなかありません。

- ### 3.11 伝承ロード 登録施設
- 今回の旅のエリアにある、東日本大震災の被災実情や教訓を学ぶための遺構や展示施設。\*3.11伝承ロードについてはこちらHP: <https://www.311densho.or.jp/>
- MAP 1 気仙沼市復興祈念公園
  - 4 命のらせん階段(旧阿部家住宅)
  - 5 リアス・アーク美術館
  - 7 唐桑半島ビジターセンター
  - 8 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
  - 13 南三陸町東日本大震災伝承館 南三陸3.11メモリアル
  - 16 高野会館
  - 17 海見える命の森
  - 21 石巻市震災遺構大川小学校

### 伝えたい旬 能登編

「フグ」 4月～6月頃

回遊魚であるフグは産卵期にあたる春から初夏にかけて能登にやってきます。トラフグ、マフグ、ゴマフグ、ヒガンフグなど多様な天然フグが水揚げされ「能登ふぐ」ブランドとして、人気を集めています。産卵期のフグからは白子や卵巣など、貴重な部位も採ることができ、まさに旬の味。

### 仮設住宅への移転が終わる一方、インフラは完全復旧していない。

北陸レポート 能登の今

昨年の発災直後から、石川県珠洲市に入り、現在も「生活水を届ける」活動を続けている(一社)ボランティアサポート代表の村上泰史さんに話を聞きました。「水道は公道までは復旧しても、各家庭(私有地)では自分で修理する必要があります。しかし地元業者の数は少なく、今でも水道が通っていない家はたくさんあります。そこに9月の集中豪雨災害が重なり、さらに復旧が遠のいているのが現状です」と話し、「発災から一年以上経っているし、能登から離れているとピンとこないかもしれない。でも、本当にこれは他人事では無く、自分達にいつか起こることということ。想像の先の現実を知ることが、自分事になる最初の一步、防災の基本だと思う」とも語りました。

※詳しい活動には「わたくし新聞・能登レポート号」にて紹介中。(HPにも掲載あります)